ウイメンズ・スクエア

子宮筋腫で辛い思いをしないために

30歳以上の女性の20～30％が持つといわれる子宮筋腫。良性の腫瘍であるため命に関わることはありませんが、生活に支障をきたす辛い症状が起こることもあります。また、妊娠や出産のトラブルを招くこともあります。子宮筋腫ではどのような症状が現れるのでしょうか。また、見つかった場合はどう対処すれば良いのでしょうか。

子宮筋腫とは

●筋腫が大きくなると不快な症状が増加

子宮筋腫は子宮にできる良性の腫瘍で、30歳以上の女性のおよそ4人に1人が持っているといわれます。それ自体が命を脅かすことはありませんが、放置していると次第に大きくなっていきます。

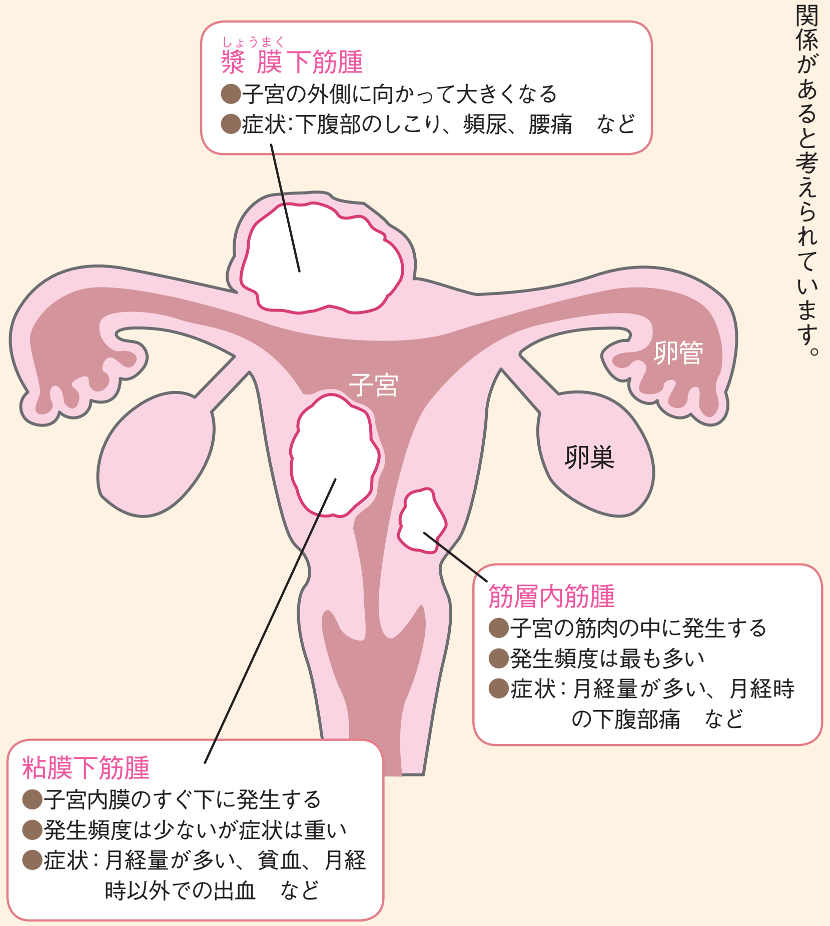
子宮筋腫ができる原因ははっきりわかっていませんが、筋腫は卵胞ホルモンの分泌が盛んな年代に多く、閉経後に縮小することから、卵胞ホルモンと深い関係があると考えられています。

●症状は、できる場所によって異なる

筋腫は複数個できることが多く、大きさは米粒大のものから、小玉のスイカほどのものまで様々です。子宮筋腫の60～70％は自覚症状がありませんが、できる部位や大きさ、数によって辛い症状が出ることもあります。

代表的な症状は、月経量の増加や月経痛などです。若い人では妊娠しにくくなったり、流産しやすくなることもあります。

子宮筋腫の種類と発生部位



子宮筋腫の検査

●問診・内診や超音波検査で診断

子宮筋腫は、外来での問診や内診、超音波検査によってほぼ診断がつきます。大きな筋腫や手術を検討する場合はＭＲＩ検査を行います。大きな筋腫では約０.５％に悪性の子宮肉腫が含まれます。子宮肉腫と子宮筋腫の判別は難しく、大きさや患者の年齢、大きくなるスピードによって判断します。

また粘膜下筋腫では、正確な位置や状態を確認するために子宮鏡検査を行うこともあります。子宮鏡検査は細いカメラを子宮の出入り口から挿入し、子宮内を観察する検査です。

子宮筋腫の治療

●辛い症状がない場合は、経過観察

特に辛い症状がなく、大きさも10㎝以下で妊娠も望んでいない場合、通常は半年から1年に1回、超音波検査で大きさの変化を見ていきます。

1年に1～2回
健診で経過観察

●比較的軽い症状では、薬物療法

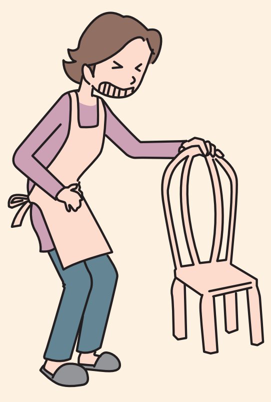
妊娠を希望する場合や、比較的症状が軽く閉経が近い場合などは、薬物療法によって症状を軽減しながら筋腫を小さくしていきます。

妊娠を希望
する場合も
薬物療法

●症状によって生活に支障をきたす場合は、手術を検討

子宮筋腫が不妊などの原因になっていると考えられたり、生活に支障をきたすほど症状が強くなった場合は、患者の希望に応じて切除手術が検討されます。

手術は、筋腫だけを摘出する方法と、子宮全体を摘出する方法に大別されます。妊娠を希望するかどうかや、再発リスクなどを担当医とよく相談して手術の種類を選択します。



症状が辛い場合は切除手術も検討

●開腹しないで行う方法もある

手術方法は、下腹部を切開して筋腫や子宮を摘出する開腹手術や、腹部の3箇所ほどに小さな孔を開けて内視鏡を挿入し、先端に付いている電気メスを使って切除する腹腔鏡手術があります。確実でより安全なのは開腹手術。腹腔鏡手術は傷跡が小さく、入院期間も短期間で済みますが、筋腫が大きかったり数が多いと対象になりません。その他、膣から子宮摘出を行う方法や、膣から子宮内に内視鏡を挿入して粘膜下筋腫を切除する方法もあります。

治療法には一長一短があります。どのような治療を受けるか、担当医とよく相談して選ぶことが大切です。

子宮筋腫とよく似た子宮肉腫は注意が必要

子宮肉腫は子宮筋腫とよく似ていますが、進行が非常に早く、悪性なので早期発見が大切です。気になる症状がある場合は早めに受診しましょう！

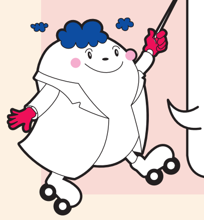
薬物療法の種類と特徴

種類		特徴
対症療法		貧血では造血薬を、月経痛や腹痛では鎮痛薬・漢方薬などを使って症状を改善する。
ホルモン療法	低用量ピル	月経の量を少なくし、月経痛を軽減させる。
ホルモン療法	GnRH製剤	女性ホルモンの分泌を抑え、一時的に排卵を止めて筋腫を縮小させる。手術による治療の前処置などとして短期間行われる。人工的に閉経と同じような状態にするため、更年期障害のような症状や骨量の低下などが起こることがある。

手術の種類と特徴

種類	特徴
子宮全摘手術	妊娠を希望せず、完治を望む場合は第一選択となる。子宮を摘出しても、卵巣を残していれば更年期障害は起こらない。
子宮筋腫核出術	筋腫のみを取り除き、子宮は残す。妊娠は可能。小さな筋腫が取りきれずに残ることもあり、再発する可能性がある。
子宮動脈塞栓術	子宮動脈を詰まらせ、筋腫への酸素や栄養を途絶させて筋腫を縮小させる。健康保険が適用されず、実施できる医療機関が限られる。
集束超音波治療（FUS）	超音波の振動エネルギーを筋腫に集中させることで、筋腫細胞を壊死させる。筋腫を縮小させて症状を軽減させることが目的。腹部を傷つけずに治療できるが、再発の可能性がある。健康保険が適用されず、実施できる医療機関が限られる。

子宮筋腫は、婦人科健診で見つけることができます。



早期に発見すれば、経過観察とともに適切な治療を受けられます。ぜひ、婦人科健診を受けましょう！

※日航健保では、18歳以上の被保険者・被扶養配偶者に対し、婦人科健診費用の7割（上限10,000円）の補助を行っています。申し込み等はホームページ（P.11参照）をご覧ください。